

# 経営比較分析表（平成28年度決算）

奈良県 黒滝村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	小規模集合排水処理	I3	未設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	4.03	100.00	3,090

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
746	47.70	15.64
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
30	0.01	3,000.00

**グラフ凡例**

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成28年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



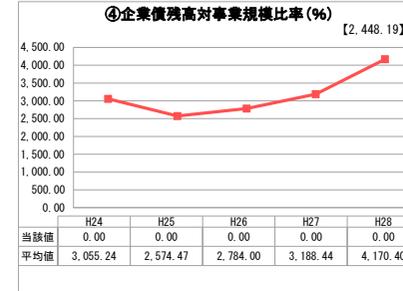
「単年度の収支」



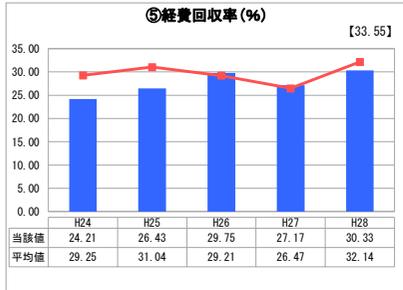
「累積欠損」



「支払能力」



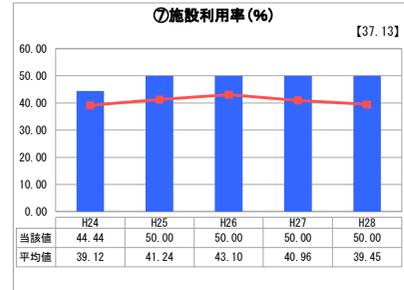
「債務残高」



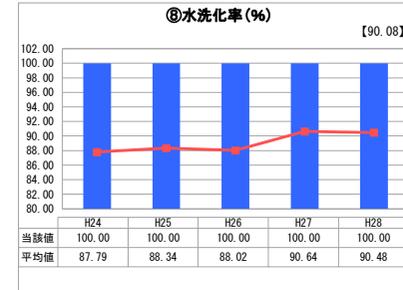
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

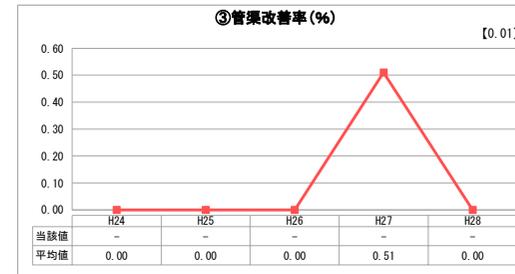
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

## 分析概

### 1. 経営の健全性・効率性について

現在、村営住宅3団地に居住する29名（人口の約3.5%）が使用している。類似団体平均値と比べると、平均的又は良好な数字となっているが、使用料収入が少額であることから、①収益的収支比率は約56.5%、⑤経費回収率は約30%と、約70%が一般会計繰入金に頼った経営状況である。

今後、新たに集合処理浄化槽を設置する予定はなく、また、人口減少が進む中、使用料収入の増加も全く望めない。今後も一般会計の繰入金に頼って経営が続くとみられるため汚水処理経費を減少するために、施設について効率的な維持管理を行い経費削減を目指し繰入金の減少に努める。

### 2. 老朽化の状況について

現在使用している集合処理浄化槽は全て10年以上前に設置したもので、徐々に老朽化しているのが現状である。今後も点検・修繕等の維持管理を行っていかなければならない。

## 全体総括

経営状態が、一般会計からの繰入金に約70%超に頼る経営状態となっている、料金改定も今後検討していかなければならないが、料金改定も難しく今後も繰入金に頼る経営状態になると考えられる。そのため汚水処理費等の必要経費の削減に努め繰入金の減少を目指す。

既存施設は老朽化が目立つが随時点検を行い必要に応じて改修を行い、適正な維持管理に努め、経営の負担の平準化を図る。

経営戦略については、平成27年度に策定を行った、毎年度の経営状態を見ながら更新を行っていく。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。